



発行所 大分県下郡字長谷496の38 大分県教育会館2F 大分県PTA連合会 ☎(097)556-9055 責任者 藤田 千克由 印刷所 大分県下郡3154の22 九州凸版印刷

同じ立場で熱い論議 県P初！ 集い合う306名 「県全単P会長研修会」開催

12月9日(土)別府市ビーコンプラザを主会場に、
県全単P(各学校PTA)会長研修会が開催された。

午前中は、テーマごとに6分科会に
分かれて討議を行い、午後からは
「子どもの生活リズム向上
全国フォーラム」へ参加した。



あいさつをする藤田会長と
県P連役員



参加したPTA会長の皆さん

分科会別・テーマなど	テーマ	話題提供者
1	PTA活動への父親の参加 「父親クラブの活動を継続・発展させていくための手法について」	安部 昌司 (別府市立浜脇中P会長)
2	少子化が進行する中で、小学校の社会体育・中学校での部活動 「子どもたちが希望するスポーツ活動の場を確保するために何ができるのかについて」	後藤 篤美 (竹田市立南部小P会長)
3	学校とはなんぞや(市町村合併に伴うPTA活動) 「単P会長から、見た(見えてくる)学校について」	衛藤 文司 (宇佐市立院内中P会長)
4	PTA活動や行事に参加者をふやすための工夫 「大規模校での専門部活動や学校行事への積極的な参加を求めて」	内林 高德 (大分市立豊府小P会長)
5	協育(地域とのコミュニティーづくり) 「よりよい教育環境をつくるために、地域・学校と連携して行うPTA活動の手法について」	進藤 徳子 (豊後高田市立高田中P会長)
6	地域の安全 「子どもたちの安全を確保するために何ができるのかについて」	渡辺 和道 (由布市立大津留小P会長)

県下475校のPTAより306名が出席。全小中学校のPTA会長が一堂に会しての研修会を行い、今年度、初めての開催となった。初めに全体会が行われ、藤田千克由県P連会長が「PTAで何ができるのか、課題解決のためのヒントを一人ひとりが持ち帰ってほしい。PTAの一分とは何か。これまでの型にこだわらず、議論をお願いしたい」とあいさつした。分科会のテーマや内容については、手探りの状況の中、特別専門部の教育研修部が中心になり考えた。今回は、特に代表的な活動をしているPTAに話題提供してもらい、討議を進めていくこととした。木梨雅孝教育研修部長が「会員の声を反映できる取り組み

共にも考え 実践の第一歩に
「県下475校のPTAより306名が出席。全小中学校のPTA会長が一堂に会しての研修会を行い、今年度、初めての開催となった。初めに全体会が行われ、藤田千克由県P連会長が「PTAで何ができるのか、課題解決のためのヒントを一人ひとりが持ち帰ってほしい。PTAの一分とは何か。これまでの型にこだわらず、議論をお願いしたい」とあいさつした。分科会のテーマや内容については、手探りの状況の中、特別専門部の教育研修部が中心になり考えた。今回は、特に代表的な活動をしているPTAに話題提供してもらい、討議を進めていくこととした。木梨雅孝教育研修部長が「会員の声を反映できる取り組み



フォーラムをきっかけに向上を

員の声の反映できる取り組み... 生活リズムを整えよう
午後からは、子どもの生活リズム向上全国フォーラムinおおい「早ね早おき朝ごはんのスヌメ」フォーラムが行われた。基調講演では、鍵山秀三郎「早寝早起き朝ごはん」全国協議会副会長が「校内が整然と

生活リズムを整えよう
午後からは、子どもの生活リズム向上全国フォーラムinおおい「早ね早おき朝ごはんのスヌメ」フォーラムが行われた。基調講演では、鍵山秀三郎「早寝早起き朝ごはん」全国協議会副会長が「校内が整然と

をしてみよう
と企画した。地域性、学校規模も違う中で、抱える課題をできる限り取り入れた。課題解決の糸口になればと思う。積極的な発言を期待する」と述べ、各分科会のテーマ・論点について説明した。

生活リズムを整えよう
まずは大人が意識して
「生活リズムを整えよう」フォーラムは、子どもだけでなく、大人も意識して取り組む必要がある。親の姿を通して子どもを導き、いい事(良い行為)を考える子に育ててほしい。掃除を生活習慣に」と述べ、神山潤「子どもの早起きをすすめる会」発起人が「朝の光で生体時計はリセットされる。夜ふかしは身体の変調を起し、学力低下にもつながる。早起き早寝朝ごはんそれに朝ウンチが一番いい」と、データを用いた講演した。続いてのパネルディスカッションでは、西村多恵子県P連母親部長がパネラーとして参加。家庭での子どもの様子や保護者としての思いを語った。

生活リズムを整えよう
まずは大人が意識して
「生活リズムを整えよう」フォーラムは、子どもだけでなく、大人も意識して取り組む必要がある。親の姿を通して子どもを導き、いい事(良い行為)を考える子に育ててほしい。掃除を生活習慣に」と述べ、神山潤「子どもの早起きをすすめる会」発起人が「朝の光で生体時計はリセットされる。夜ふかしは身体の変調を起し、学力低下にもつながる。早起き早寝朝ごはんそれに朝ウンチが一番いい」と、データを用いた講演した。続いてのパネルディスカッションでは、西村多恵子県P連母親部長がパネラーとして参加。家庭での子どもの様子や保護者としての思いを語った。

情報交換で
活性化のヒントを
続いて会場を移し、分科会が行われた。分科会では、教育研修部員が司会を担当。テーマや会の進め方等について説明した。まず、話題提供者より各学校PTAでの取り組みの状況が報告された。討議に入り、提案された内容についての質問や意見が次々と出された。また、単位PTAの活動を通しての意見交換では、それぞれの専門部活動(父親部他)や行事の工夫(父親の力を生かせる場づくり、一人一役の取り組み、親子で30分読書等)、会長としての思い(行事に参加した人を大事

にした。親が
自覚を持ってほしい等)が出された。どの分科会でも途切れることなく発言が続き、情報交換の良い機会となった。各分科会の主な討議内容は次のとおり。
第1 「浜中とうちゃん会」の名でPTA組織に属せず、OBも加え自由に活動。父親の出席を促し学校をサポート。
第2 小規模校は部の数が少なく希望の競技ができない。社会体育を部として中体連参加を要望しても認められない。
第3 学校は家庭教育の差を縮めてくれる。学校に感謝し、人を大切に。合併して要望が通りになった面もある。
第4 8つの専門部の活動や地域との連携行事がある。楽しさや成果がわかるとPTA活動に参加するようになる。
第5 清掃活動、あいさつ運動、交通指導、研修会等行事への積極的参加で、地域の方との連携や交流ができています。

生活リズムを整えよう
まずは大人が意識して
「生活リズムを整えよう」フォーラムは、子どもだけでなく、大人も意識して取り組む必要がある。親の姿を通して子どもを導き、いい事(良い行為)を考える子に育ててほしい。掃除を生活習慣に」と述べ、神山潤「子どもの早起きをすすめる会」発起人が「朝の光で生体時計はリセットされる。夜ふかしは身体の変調を起し、学力低下にもつながる。早起き早寝朝ごはんそれに朝ウンチが一番いい」と、データを用いた講演した。続いてのパネルディスカッションでは、西村多恵子県P連母親部長がパネラーとして参加。家庭での子どもの様子や保護者としての思いを語った。

生活リズムを整えよう
まずは大人が意識して
「生活リズムを整えよう」フォーラムは、子どもだけでなく、大人も意識して取り組む必要がある。親の姿を通して子どもを導き、いい事(良い行為)を考える子に育ててほしい。掃除を生活習慣に」と述べ、神山潤「子どもの早起きをすすめる会」発起人が「朝の光で生体時計はリセットされる。夜ふかしは身体の変調を起し、学力低下にもつながる。早起き早寝朝ごはんそれに朝ウンチが一番いい」と、データを用いた講演した。続いてのパネルディスカッションでは、西村多恵子県P連母親部長がパネラーとして参加。家庭での子どもの様子や保護者としての思いを語った。

生活リズムを整えよう
まずは大人が意識して
「生活リズムを整えよう」フォーラムは、子どもだけでなく、大人も意識して取り組む必要がある。親の姿を通して子どもを導き、いい事(良い行為)を考える子に育ててほしい。掃除を生活習慣に」と述べ、神山潤「子どもの早起きをすすめる会」発起人が「朝の光で生体時計はリセットされる。夜ふかしは身体の変調を起し、学力低下にもつながる。早起き早寝朝ごはんそれに朝ウンチが一番いい」と、データを用いた講演した。続いてのパネルディスカッションでは、西村多恵子県P連母親部長がパネラーとして参加。家庭での子どもの様子や保護者としての思いを語った。

生活リズムを整えよう
まずは大人が意識して
「生活リズムを整えよう」フォーラムは、子どもだけでなく、大人も意識して取り組む必要がある。親の姿を通して子どもを導き、いい事(良い行為)を考える子に育ててほしい。掃除を生活習慣に」と述べ、神山潤「子どもの早起きをすすめる会」発起人が「朝の光で生体時計はリセットされる。夜ふかしは身体の変調を起し、学力低下にもつながる。早起き早寝朝ごはんそれに朝ウンチが一番いい」と、データを用いた講演した。続いてのパネルディスカッションでは、西村多恵子県P連母親部長がパネラーとして参加。家庭での子どもの様子や保護者としての思いを語った。

生活リズムを整えよう
まずは大人が意識して
「生活リズムを整えよう」フォーラムは、子どもだけでなく、大人も意識して取り組む必要がある。親の姿を通して子どもを導き、いい事(良い行為)を考える子に育ててほしい。掃除を生活習慣に」と述べ、神山潤「子どもの早起きをすすめる会」発起人が「朝の光で生体時計はリセットされる。夜ふかしは身体の変調を起し、学力低下にもつながる。早起き早寝朝ごはんそれに朝ウンチが一番いい」と、データを用いた講演した。続いてのパネルディスカッションでは、西村多恵子県P連母親部長がパネラーとして参加。家庭での子どもの様子や保護者としての思いを語った。

生活リズムを整えよう
まずは大人が意識して
「生活リズムを整えよう」フォーラムは、子どもだけでなく、大人も意識して取り組む必要がある。親の姿を通して子どもを導き、いい事(良い行為)を考える子に育ててほしい。掃除を生活習慣に」と述べ、神山潤「子どもの早起きをすすめる会」発起人が「朝の光で生体時計はリセットされる。夜ふかしは身体の変調を起し、学力低下にもつながる。早起き早寝朝ごはんそれに朝ウンチが一番いい」と、データを用いた講演した。続いてのパネルディスカッションでは、西村多恵子県P連母親部長がパネラーとして参加。家庭での子どもの様子や保護者としての思いを語った。

生活リズムを整えよう
まずは大人が意識して
「生活リズムを整えよう」フォーラムは、子どもだけでなく、大人も意識して取り組む必要がある。親の姿を通して子どもを導き、いい事(良い行為)を考える子に育ててほしい。掃除を生活習慣に」と述べ、神山潤「子どもの早起きをすすめる会」発起人が「朝の光で生体時計はリセットされる。夜ふかしは身体の変調を起し、学力低下にもつながる。早起き早寝朝ごはんそれに朝ウンチが一番いい」と、データを用いた講演した。続いてのパネルディスカッションでは、西村多恵子県P連母親部長がパネラーとして参加。家庭での子どもの様子や保護者としての思いを語った。

生活リズムを整えよう
まずは大人が意識して
「生活リズムを整えよう」フォーラムは、子どもだけでなく、大人も意識して取り組む必要がある。親の姿を通して子どもを導き、いい事(良い行為)を考える子に育ててほしい。掃除を生活習慣に」と述べ、神山潤「子どもの早起きをすすめる会」発起人が「朝の光で生体時計はリセットされる。夜ふかしは身体の変調を起し、学力低下にもつながる。早起き早寝朝ごはんそれに朝ウンチが一番いい」と、データを用いた講演した。続いてのパネルディスカッションでは、西村多恵子県P連母親部長がパネラーとして参加。家庭での子どもの様子や保護者としての思いを語った。

第15回大分県PTA研究大会別府地区速見大会が2月3日(土)開催され、県下よりPTA関係者約700名が参加。

「心豊かでたくましい子どもの育成を目指したPTA活動を考えよう」を研究主題に「共に語ろう！心豊かでたくましい子育て論！」のローガンのもと日出町中央公民館と他3会場で催された。

午前中の全体会に続き午後から各会場で分科会が行われ活発な討議がなされた。

第15回大分県PTA研究大会別府地区速見大会

魅せて活かせて

際立つPTA活動

全体会

開会式で藤田千克由県P連

会長は「社会全体が大きく変貌する中、教育を取り巻く環境も様々な改革がなされ、施策が講じられている。私たちが願うのは、子どもたちが生き生きと成長して、輝かしく未来を子どもたちに約束するために、県P連は、全力で活動の展開に努力している」と述べた。

続いて、深田秀生県教育長は「県立初となる中高一貫校の4月開校を始め、学力向上対策、教職員の資質向上など様々な教育改革を行っている。学校・家庭・地域三者をつなぐ要となるPTAと行政がしっかりと手を携えはぐくむこ

とが重要だと強く認識している」とあいさつした。

また、井村修一大会実行委員長は参加者へ感謝と活躍を祈念するとあいさつし、来賓の祝辞へと移った。

次に、次期開催地(平成20年度・竹田地区)から代表して、池内晴一県P連副会長が20年度に向けて意気込みを宣べた。

内林高徳九州ブロックPTA研究大会大分大会実行委員長は、今年10月に開催される大分県大会の記念事業(子どもたちによるミュージカル公演※4面参照)の決定と内容説明の報告をし、開会式は、滞りなく終わった。

「子育ては、あたたかくやわらかく、ゆつたりと」を演題に増山均早稲田大学文学部教授のユーモアを交えての講演があった。会場が和やかな空気に包まれ、午前中の日程は終了した。

能。しっかり地域の方々ともコミュニケーションをとることが最も大切だ」と報告した。

討議では「パトロールはもろ必要だが、保護者の危機感を向上する活動も大事ではないか」、「子ども自身にも自分を守る方法を教えるは」など建設的な意見も出されていた。

伊藤浩日出町立藤原小学校長は「西小の素晴らしい所は保護者より学校へ働きかけ、地域へと拡がって行ったという取り組みだ。大切なのは自分の子は自分で守るという危機感を強く持つこと。それが地域に伝わっていく。長く取り組むには地域を巻き込むこと」と指導助言した。

野田真理子、阿部真理子日出町立藤原小学校PTA両副会長は「親子のふれあいをとおして豊かな心を育むPTA活動」と題し発表。

参観から参画へ

「子どもたちの豊かな心を育て、心身とも健康に成長してもらいたいことを願い、PTAの専門部の活動や学校の行事を活用している。研修部主催の「親子ストーンペインティング」はお互いに知恵を出し合い作品をつくる。また、平和集会では子どもと保護者と先生で朗読劇を行い平和のありがたさを親子で実感した。子どもとふれあうことで生き

生きした眼差しに出会えた」と報告した。

討議では、このような活動をもつてさえ出て来ない会員への意識向上は、どうすればいいのかなど白熱した意見が相次いだ。

赤峰幹夫県教育庁別府教育事務所次長兼指導課長は「藤原小は積極的な取り組みで、学校行事への参加等があり、成果をあげている。今年は車椅子マラソンで世界的に活躍している廣道純さんの「どうせ生きるなら」の演題で彼の前向きでエネルギー溢れる生き方を学んだ」と報告した。

討議では、各校の地域との

第2分科会 教育問題(中学校)

親子の和から

地域の輪へ

「社会の変化に対応したPTA活動について」をテーマに約50名が参加し討議が行われた。

津留富美国東市立国東中学校PTA副会長は「学校・家庭・地域のつながりを深めるPTA活動について」と題し発表。

「子どもたちを取り巻く環境の変わる中、学校と地域と一緒に喜びと問題を共有して健全育成を図っていく」と考えている。親子で聞く教育講演会、祭りの見回り活動、スクールガード、空き瓶回収、体育大会への参加等があり、成果をあげている。今年は車椅子マラソンで世界的に活躍している廣道純さんの「どうせ生きるなら」の演題で彼の前向きでエネルギー溢れる生き方を学んだ」と報告した。

見守ろう

地域の子ども

次に松本雅恵中津市立緑ヶ丘中学校PTA会長は「異校種PTAの連携をめざして、緑中校区連絡協議会通称チヤンネル5」の活動を通して、「と題し「緑ヶ丘中・三保小・大幡小・鶴居小の4つのPTAと児童民生委員会をつなぐ意味をこめて「チヤンネル5」と指導助言した。

第3分科会 家庭教育

まず家庭から

地域へ発信

「子どもを取り巻く諸問題に対して家庭の役割はどうあるべきか」をテーマに約120名が参加し討議が行われた。

田中基別府市立春木川小学校PTA会長は「本校における家庭の教育力向上への取り組み」と題しビデオ発表。「今回PTA紹介ビデオを製作したねらいは、PTAを理解し活動に参加してもらうため。また活動内容が、家庭の教育力向上に役立つようになることをひとりでも多くの保護者に知ってほしい」と報告した。

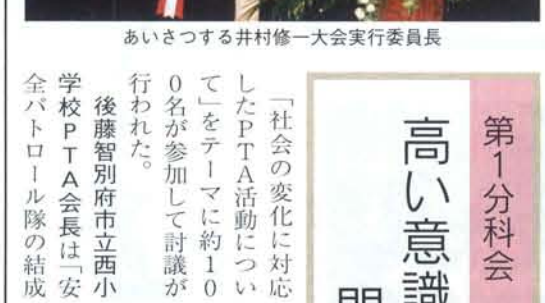
次いで司城智子・楠美和宇佐

と名称を決定した。心を合わせて校区内の児童生徒を見守りたいとの願いから発足。テーマを決めて子育て研修会を開催し、合同パトロールも実施した。活動内容をより多くの方に知ってもらいたいとの思いから「みどりの風通信」を創刊し、全世帯に配布。保護者に好評を得た。参加者同士の間で交流が図れ、我が子だけでなく、地域の子どものための工夫や各校の取り組み等について活発な意見交換が行われた。

高橋一成県教育庁生涯学習課主任社会教育主事は「地域の宝(異校種ネットワーク)事業をすすめているが、先駆けて活動しているのが素晴らしい。PTAは「MOVE」になってほしい。青少年健全育成の使者として目的を持って、同じ方向を向き、みがきあって、いろいろと動いてほしい」と指導助言した。

見交換がなされた。

横から 縦の連携へ 入江義親別府市立春木川小学校長は「地域は学力の基になるものの宝庫。子どもが安心して学習できる環境づくりが必要。地域の活動で保護者が仲良しになれば、いじめもなくなるのでは」と指導助言した。



あいさつする井村修一大会実行委員長

「社会の変化に対応したPTA活動について」をテーマに約100名が参加して討議が行われた。

後藤智別府市立西小PTA会長は「全パトロール隊の結成

第1分科会 教育問題(小学校)

高い意識が 問題解決のカギ

「社会の変化に対応したPTA活動について」をテーマに約100名が参加して討議が行われた。

「子どもを取り巻く諸問題に対して家庭の役割はどうあるべきか」をテーマに約120名が参加し討議が行われた。

「子どもを取り巻く諸問題に対して家庭の役割はどうあるべきか」をテーマに約120名が参加し討議が行われた。

「子どもを取り巻く諸問題に対して家庭の役割はどうあるべきか」をテーマに約120名が参加し討議が行われた。

「子どもを取り巻く諸問題に対して家庭の役割はどうあるべきか」をテーマに約120名が参加し討議が行われた。

記念講演 (講演要旨)

子育ては あたたくく やわらかく ゆったりと



増山 均 (早稲田大学文学部教授)

子育てに「長く大きなもの(や)」をあつこう
「子育ては あたたくく やわらかく ゆったりと」という姿勢を持つために、非常に重要なキーワードがある。子育てにできる限り長く大きなものをあててみる...

「子育て」の「育」は5種類
「育」という字は、ものさしが短いと教育の「育」にしか見えない。「教育・養育・遊育・調育・療育」のうち、土台となるのが「養育(食育・眠育・気育)」...



講演を聴き入る参加者

熱っぽく語る提言者

第4分科会 健全育成と地域活動
工夫次第で広がる 連携のかたち

A活動、学校・保護者・地域の連携を通して」と題し発表。
「①祭りなどの地域行事への積極的な協力(敷戸祭り、ななせ火群祭りの子ども柱松、どんど焼き)。地域の祭りに参加することで、子どもたちは伝統を体験し郷土愛に、地域は行事を盛り上げ発展に、PTA組織は活動の活性化につながる。②学校、地域と連携した子どもの安全見守り活動。敷戸校区全体で常に監視の目が働く。子どもたちの安全と健全育成には、地域の協力が必須で、地域と一体となった活動を行って地域の教育力を引き出した」と報告した。

次に、清成宣明別府市立青山中学校PTA会長は「地域と連携し輝く青中生」と題し発表。「生徒は主体性を育て生きる力をつけるため、学校は開かれた特色ある学校にするため、ものづくり講座(今年度は料理、三味線、木工、和裁、写真など40講座)が開設された。地域の達人をお招きし、週1回2時間かけて半年間行っている。11月の文化祭で発表・展示・販売する。地域に成果の披露ができた。主体的に学ぶ姿があらゆる面で見られるようになった。地区公民館の文化祭などに講座成果として発表の場を広げ、地域への還元、交流が始まった」と報告した。

家族と一緒に 「朝ごはん」

第5分科会 健康・安全

理解深めて 充実した連携を
手嶋勇別府市立青山中学校長は「学力よりもその土台となる学習力の向上や取り組み意欲も高める」と学習意欲との関連について述べた。
原聖二郎県教育庁生涯学習課長は「子どもの心とからだの健康、安全はどうかあるべきか」をテーマに約80名が参加。財前かおり国東市立西安岐小学校PTA副会長は「子どもの心と食生活、朝食を通して考える子どもの健康」と題し発表。「食や生活習慣が、子どもたちの健全な育成に及ぼす影響の重要性に着目。近年、朝食を摂らずに登校する子どもたちが増えてきている傾向がみられることから、現状把握のためにアンケート調査を実施。養護教諭による食育指導や、子どもたち独自の取り組みとしての給食委員会の活動等を通して、子どもたちの食への関心を誘った。功を奏して、昨年と比べると親子共に食育への意識の向上がみられた」と報告した。

課主任社会教育主事は「地域と連携して活動する時に、なぜ連携が必要なのかお互い共通の理解がある。両PTAとも理解を得られているので充実した活動だ。情報の共有でさらに連携が深まる。組織継続を工夫しながら前進を」と総括し指導助言した。

第6分科会 人権教育
共に学び 人権感覚を 身につけよう

「家庭や地域で実践できる人権教育はどうかあればいいか」をテーマに約50名が参加。高野政治豊後大野市立千歳小学校PTA会長は「親子で取り組む人権学習、いのちの輝きを求めて」と題し発表。「会員全員が参加できる人権講演会の開催。子どもの生命を守る取り組みで地域と協力。署名活動や陳情を重ね、カーナンバーや電光掲示板、信号機の設置を得た事。『いのちの大切さを学ばせる体験活動』研究校として農園活動体験や福祉施設訪問等親子で学ぶ取り組みの実践をした。人権感覚を磨き合う中で親子の関係を深めた」と報告した。
討議では「授業に参加し家で話し合いそのアンケートを会員へ返す。老人施設の訪問。障がい者理解のための講演会

そこで「保体部だより」で食について(朝食の大切さ、成長期の栄養等)毎月掲載し現状理解と改善のため情報発信した。また、野菜嫌いをなくす工夫料理をPTA主催の料理教室で紹介したり、教職員が食育を授業に取り入れるなどの取り組みを行った。これらの事は大きな一歩であり、様々な形で学習を深めている」と報告した。
まずは 「食」への興味を
テーマが共通であることから両PTA同時に行われた討議では「今回の取り組みに対する反応は」や「保護者の意識への影響は」に對して「興味の有無による保護者間の温度差はある。今後、アンケートの

人とのつながりで 育てよう

次に、都甲靖村築市立北都中学校PTA会長は「家庭や地域で実践できる人権教育はどうかあればいいか、学校・地域の人々を愛する取組」と題し発表。「PTAで親子人権学習し家庭でも話し合う。くらしの中の人権講座」参加の報告を理事会や広報紙でする
集計結果に見られる実態を報告し、食のあり方や安全性をPTA役員から発信していきたい。」「啓発活動の継続が重要である」と活発な意見交換が続いた。
鶴田幸一 国東市立西武蔵小学校校長は「食に対する意識が広がっている様子がアンケートの結果に現れている。地域に伝わる食文化を通して正しい食のあり方や食の大切さ、感謝の心を今後もはぐくんでいってほしい」、土谷政代県教育庁体育保健課健康教育・安全対策班主幹は「両PTAとも学校との連携により意識向上の仕掛けが整いネットワークが広がっている様子がうかがえる。今後も様々な場面で食育の意識を持ち続けてほしい」と指導助言した。
討議では、各校の実践(地域の太鼓演奏への参加。地域の若者が子ども会の演劇を指導。駅周辺の清掃活動が報告され、統合による子ども心のケア等の質問が出た。
鎌手勝公県教育庁人権・同和教育課指導主事兼主幹は「学校と家庭が連携した人権教育は効果がある。参観から参加の形にしたのは良い視点。心の垣根を取り地域との関わりを持つ。家庭や地域でできる人権教育として、家族同士が尊重され子どもが安心して暮らす家庭づくり、地域の人の個性・多様性を認め合うことが大切。知り合う機会を作ろう」と総括し指導助言した。
すべての事柄の基盤となる人権について、理解を深めた分科会討議であった。



理解を深める人権学習

平成18年度

教育問題懇談会 行政に期待

県P連では、毎年各郡市P連より出された教育行政への要望事項を県教委に示し、教育諸問題の解消に努めている。

今年度は平成18年11月17日、大分県教育会館において開催された。県教委からは柳澤好治生涯学習課長をはじめ関係各課より12名、県P連からは藤田千克由会長他副会長・理事ら25名が出席。要望ごと回答をいただいた後、熱心な質疑応答が行われた。

(要望は27項目にわたるが、紙面の都合で以下抜粋した)

30人学級拡大と20人下限枠外に向けた教職員配置について(義務教育課)

- 平成16年度より小学校第1学年に30人学級編制を導入し平成18年度より小学校2年生まで拡充した。
- 3年生以上は30人学級は導入していないが国語・算数に対して少人数指導、ティームティーチング等きめ細かな指導に取り組んでいる。
- 30人学級の20人下限については、小学校1・2年生の社会性を養うためにも一定規模の学級集団は必要と考えている。高、20人下限の対象学級においては指導方法の工夫改善に係る加配定数を配置しているの理解してほしい。

複式学級の解消について

- 複式学級の解消に向けて、大分県では平成5年度以降、県単独措置により国の複式学級編制の標準の大幅な緩和措置を全国に先駆けて取り組んでいる。全国でもトップレベルの水準となっている。
- 財政難で厳しい状況の中であるが、今後も現行制度の維持に努めていきたい。
- 障がい児学級の開設及び障がいに応じた複数の適任者の配置について

- 障がい児学級は、平成6年度から人数に関わらず、対象児童生徒が1名であっても特別に許可する場合があると改善したところである。
- 担当教員の配置については国の標準法の編成基準に従って今後とも適任者を配置していく。
- 高校通学区域全県一制実施のための進学指導上のデータ等の作成について
- 平成20年度からの全県一学区の実施により、保護者等から高等学校への進学希望の基準の強い要望があることは知っている。平成18年11月11日には県PTA連合会から要望書の提出がなされた。
- 県教育委員会としては、このような保護者からの要望に対して、業者テスト廃止の経験や踏まえながら、どのような対応ができるのか検討しており、本年度中には結論を出したいと考えている。



教育問題懇談会 大分県PTA連合会 11月17日

要望に答える各課の代表

PTA活動等補助金の増額について(生涯学習課)

- 来年度の九州ブロックPTA研究会大会の支援について、厳しい財政状況ではあるが、大会の意義は理解しているの最大限の支援を行う。具体的内容については、今後、会

長はじめ事務局と相談をしていく。

子どもの登下校中の安全対策について(体育保健課)

- 平成17年度・18年度の2カ年において、全県下、小中学校全部を対象にスクールガードリーダーを作り巡回指導を行っている。それを下に、それぞれの学校でスクールガードという組織(25名)を作って、巡回を含め、地域ぐるみの学校安全に努力していきたい。
- 来年度以降は、スクールガードに関しては、各市町村の教育委員会が独自対応して、この2年間の取り組みを参考に、独自の取り組みをお願いしている。

中体連への補助について(文化課)

- 遠征費用に関しては、県中体連に定額の補助をしている。中体連では大会の参加実績により各学校に補助をしている。昨年度はその補助額を20万円増額して、150万円の補助金を出している。財政事情が厳しい折ではあるが、この予算の獲得について努力していく。
- 県中学校文化連盟については来年度早々に設立総会を開くことを目指し、県中学校長会を中心に作業が進められている。県としても、中体連の活動経費に対してスムーズに行われるように検討している。具体的には、19年度からの予算で考えている。
- 中文連の自主財源の確保に向けては各市町村の教育委員会の教育長に対して財政的に支援をするようにすでにお願いにまわっている。何らかの形で対応ができるものと期待している。

いじめ相談電話

なやみいおう
0570-078310
(24時間いじめ相談ダイヤル)

文部科学省は、全国どこからでも同じ番号でかけられるいじめ相談を開始した。大分県の相談関係は従来日中のみ開設していたが、児童相談所や警察などと協力して24時間対応できるようにした。(通話料は市内通話と同じ程度)

第30回大分県PTA広報紙コンクール

締切：平成19年3月22日(木)
審査日：平成19年4月4日(水)
表彰式：平成19年4月18日(水)
対象：県下の小・中・養護学校PTAで年3回以上発行した広報紙。

〔平成18年4月～平成19年3月までの発行分〕

審査対象は小学校と中学校の2部門とする。「第30回大分県PTA広報紙コンクール出品について」は各学校PTAにお送りしています。

社日本PTA
第52回九州ブロックPTA研究大会 大分大会
★2007年10月27日・28日★

ミュージカル に決定!!

「第52回九州ブロックPTA研究大会 大分大会」開催に伴い、記念事業としてオリジナルミュージカル『ここは命の星』を制作します。キャストは大分県内在住の小学3年生～中学生までを一般公募します。ふるってご参加ください。詳細は「はぐく美」5月号と共に配布予定です。

♥問い合わせ先
第52回九州PTA大分大会準備実行委員会(事務局)
TEL 097-556-9055(土日を除く午後1時～5時まで)

反抗期 どう接したらいいの? ④

“秘密”のはなし

Q 中学一年生の男の子のことですが、最近、私を避けようとする行動が目につきます。私は、何でも知っておきたくて、子どもに根掘り葉掘り聞くことがあるのでそれを嫌っているのかもしれない。

A この時期は、「自立」の時期といわれているのは、よくわかっているつもりですが、このような様子をもどかのように考えればよいのでしょうか。

Q そして、その気持ちを支えているもののひとつに、「秘密」——こっそりと自分の胸にしまっておきたいこと——があったことを。

A この「ひとりになりたい」が、「自立」ということです。自分で「うがえる」ということではなく、「うごきたい」という気持ちが高まってくることで、その表れが「秘密」ですが、「秘密」の小箱をこじ開けようとする親を疎ましく感じます。

逆に、友だちと秘密を打ち明けあい人間関係を深めることができます。これが楽しいのです。

編集後記

▼食育、眠育、気育は親の心がけ次第で変えられる。今日から始めてみよう、少しずつ。
▼PTAと行政がタッグを組んで子どもたちの未来に幸あれ！より良い教育環境を。
▼新生活スタートの季節。環境次第で楽しくも嫌にもなる。良き仲間との出会いを期待。
▼休み明けのボケた頭を切り換えて県大会へ挑んだが。

3月1日より

19年度の任意保険 3種類の募集が始まります。

《申込期間》4/1 加入：3月1日～3月30日
中途加入：4月1日～4月27日
《保険料》自転車補償(1年間) 930円
自転車補償(3年間) 2,700円
育英補償(1年間) 4,930円

～詳しくは学校より配布された案内をご覧ください～

お問い合わせ先 大分県PTA連合会事務局 097-556-9055
取扱代理店 トータルアシスト 0120-112-357

県P情報

日中友好
「少年少女の翼」
(社団法人日本PTA 全国協議会主催)

●訪問先 中国・北京
●日程 平成19年3月25日(日)～3月29日(木) (4泊5日)

●参加者 杵築市立宗方中学校 福田 百合さん (2年生)
日田市立大明中学校 佐々木 魁斗さん (2年生)

◆おこたわり 「まなざし」「親ごころ」「一村一報」は紙面の都合でお休みします。